

家族で読書の時間を

本を読むこと。それは、ただ単に書いてある文字を追っていくことでありません。思わず引き込まれ、むさぼるように読んだとき、頭の中はその物語のイメージでいっぱいになっているはず。また、自分と異なる考え方に触れたり、未知を体験したり、読書は知らず知らずのうちに自分の世界を広げてくれます。

小学校低学年になると、自分で本を読めるようになってきますが、まだまだ大人に読んでもらうのも大事にしたい時期です。自分で文字を読んでもなかなかイメージできないお子さんも、読んでもらうことでことばを絵にすることができ、おはなしを楽しむことができます。それは自分から本を読むことにもつながります。少し難しいものも、読み進めるうちに楽しい世界が広がります。

子ども時代だからこそ味わえる読書の楽しみに出会うためには、大人が本を手渡してあげることがとても大切です。大人が本を読んでいる姿も見せてあげたいものです。家族で本を楽しみましょう。

低学年から

ぼとんぼとんはなんのおと

神沢 利子 さく、平山 英三 え 福音館書店

双子のくまのぼうやとかあさんは、冬ごもりの穴の中で外から聞こえるたくさんの音を耳にします。「カーン カーン」は木こりが木を切る音、「つっぴい つっぴい」はことりの声。春の訪れを待つくまの親子に、あたたかい気持ちになれます。



中学年から

ライフタイム

いきものたちの一生と数字

ローラ・M・シェーファー ぶん、クリストファー・サイラス・ニール え、福岡 伸一やく ポプラ社



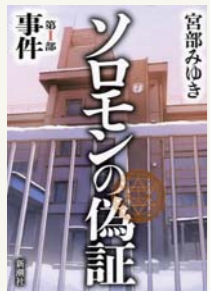
一生の間に、トナカイの角は 10 回生えかわり、カンガルーのメスは 50 匹の赤ちゃんを産みます。では、キリンの網目模様は果たしていくつ? 生きものたちの一生に隠された数字の不思議をイラストで紹介。ページをめくるたびに、地面に落ちた角や、網目模様を数えたいくなること間違いなし!

中学生 保護者

ソロモンの偽証

宮部 みゆき 著 新潮社

クリスマス未明のクラスメイトの転落死。彼はなぜ死んだのか、疑念が広がる中「同級生の犯行」を告発する手紙が関係者に届く。過剰報道、大人たちの混乱、公然の犯人捜し……。拡大する事件を前に、生徒たちは死の真相を求め、中学生による「学校内裁判」が動き出す。



中学年から

カテリネッタとおにのフライパン イタリアのおいしい話

剣持 弘子 訳・再話、剣持 晶子 絵 こくま社

鬼からフライパンを借りたカテリネッタ。お礼にドーナツを入れて返しに行きますが、食い意地にかけてついついドーナツを食べてしまい、絶体絶命の危機に! おうちのの人に読んでもらっても、自分で読んで楽しい、食べものにまつわる4つのお話。



高学年から

宝島

スティーヴンソン 作、海保 真夫 訳 岩波書店

ひよんなことから宝島の海図を手に入れた宿屋の少年・ジムは、宝探しに出帆。ところが、コックとして船に乗り組んだ一本足の海賊シルヴァーはおそろしい陰謀を企んでいて…! ハラハラドキドキの海洋冒険小説。



保護者

子どもが孤独でいる時間

エリーズ・ボールディング 著、松岡 享子 訳 こくま社

孤独(ひとりであること)の果実(みのり)は、とても豊かです。自由であること、内へ向かうこと、自分がだれで何であるか、自分自身を発見すること……。大人と同じように、子どもたちにも創造につながるひとりの時間をもつことの大切さを教えてくれる一冊。



毎月第3日曜日は「結いの日」です

家族が心をかよわすひと時をもち、ネット環境や各種メディアから離れて、家族で過ごす時間を大切に作る日として推進しています。家族でふれあいながら過ごすことの大切さを再認識してみましょう。

飯田市では家族のふれあいのひと時を「わが家の結びタイム」と名付けています。



飯田市教育委員会  
子どもを  
「はぐ」くむ情報誌

旭ヶ丘中学校2年生  
起業体験学習  
(地域に役立つ会社)

地域貢献に取り組む会社の起業を体験。  
6組は清掃ボランティア会社を設立。



飯田市  
教育ビジョン

地育力による  
未来をひらく  
心豊かな人づくり

3 2021.3 vol.13

これからの時代を生き抜く力につながる  
「飯田型キャリア教育」withコロナ



緑ヶ丘中学校2年生  
11/5  
結い未来プロジェクト with コロナ

産官学と生徒代表による実行委員会を組織し、地元企業の大人の生き方を学ぶキャリアフェスを開催。



飯田西中学校2年生  
11/20  
キャリア教育オンラインプロジェクト

地元や日本、世界で活躍する14人の「達人の生き方に学ぶ」をコンセプトに企画。

新型コロナウイルス感染拡大により、例年行われていた職場体験などの体験活動が実施できない状況となりました。しかし子どもたちや学校は主体的に工夫した活動を企画し、新しい視点での取組で「ひと・もの・こと」に出会い、自分磨きをしました。

結い  
和  
コラム



飯田市教育長 代田 昭久

いつもと同じように話をしたり体を動かしたりすることができず、楽しみにしていた行事などが延期や中止になったこの一年。飯田市が大切にしている「ふるさと学習」や「職場体験」など、自分の生き方や将来を考える「キャリア教育」も、その活動が大きく制限されました。

しかし、子どもたちは今何ができるのかを考え、積極的に行動していました。「自分の未来はわからないし、思い描いた未来にはならないと思うけれど、今こんな時だからこそ何かにチャレンジし、ちょっと立ち止まって頑張ってみたい(結い未来プロジェクト・生徒の感想より)」。こんな声を聞き、むしろ私たち大人のほうが勇気づけられました。

新型コロナウイルスは、働き方だけではなく、働く人の意識にも影響を与えています。「企業に依存するのではなく、どこでも活躍できるように、自身の強みを意識しながらキャリアを築くことが重要だ」と考える人が多くなっています\* 子どもたちには、コロナ禍で萎縮することなく、自分の可能性や好奇心を大切に、望む未来へと進んでいって欲しいと思います。

みんなで力をあわせ、子どもたちの夢や希望を大きく育(hagu)くんでいきませんか?

\*転職サイト「ビズリーチ」のアンケート調査結果より

# 学びを止めない！飯田型キャリア教育<with コロナ>

飯田型キャリア教育(ふるさと学習、環境学習、職場・福祉体験など)は、飯田市の豊かな「学びの土壌」を活かした学習と交流を進めています。今回は、3日間以上の職場体験を経験する中学2年生が集う『結いジュニアリーダー育成講座』のwithコロナを紹介します。

新型コロナウイルス感染拡大

臨時休校(4月) 分散登校(5月) 学校再開(6月)

7/18

ヤマイロゲストハウス  
高橋瑞希さんとの出会い

私は、高橋さんと出会って、「自分らしさとは何だろう」ということについて、改めて考えました。

自分を見つめ直すために海外へ行くなどの色々な経験をして、自分のやりたいことを見つけた高橋さんは、ほんとうにかっこいいと思います。

やりたいことを実現するために、自分で動いて視野を広げていくことの大切さを知りました。

自分自身を様々な方向から見て、自分の好きなことや、得意なことを生かしていこうと思います。

伊藤 結真(旭ヶ丘中学校)

高橋さんのアドバイスの中から「私らしさをさがすのをやめないでほしい。」「やりたいことは変わってもいい」の2つが印象に残っています。「自分らしさ」とはそのときの自分の好きなこと、個性、性格だと私は思います。「自分らしさ」は高校生、大学生、そして大人になっても変化していくと思うので、日々、自分を見つめ直し、自分と向き合っていきたいです。

奥村 茉莉華(竜峡中学校)

## 結いジュニアリーダー 育成講座 with コロナ

私が、この活動で印象に残っているのは、「地域=自分の個性の1つ」という考え方です。私の地元である飯田市の魅力をもっと引き出していくことで、それが自分の個性になっていくということです。

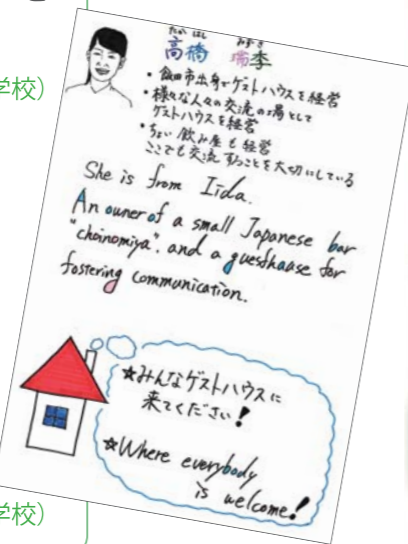
また、各中学校のジュニアリーダーは、自分にとって、とてもいいインフルエンサーで、この出会いを大切にこれからも生きていきたいです。

リーダー 本田 優奈(鼎中学校)

サブリーダー 関島 苺叶(緑ヶ丘中学校)

—私たちは結いジュニアリーダー 12期生です—

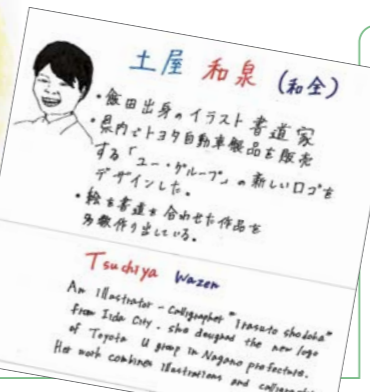
人魚姫と決断の「決」の字の上にジュニアリーダーがいます



イラスト書道家 和全さんの作品



新海さんのアドバイスをもとに情報をデザイン



イラスト書道家 土屋和泉(和全)さんとの出会い

10/24

イラスト書道家  
土屋和泉(和全)さんとの出会い

イラスト書道とは、絵と書道を合わせたもので、上の写真は和全さんに書いていただいたものです。和全さんは、色々な人に反対されていた中、この道を選んだそうです。そのお話を聞いた中で、私が最も印象に残った言葉は「自分で決めると前へ進める」です。自分で考えて、自分で決めて、自分で進んでいく。そんな風に生きてきた和全さんはとてもキラキラしていました。私もこんな風に語れる大人になりたいと思いました。

木下 優希(高陵中学校)

新型コロナウイルス感染警戒レベル [5]

1月下旬~2月下旬

12/5 (株)週休いつか 新海健太郎さんとの出会い

新海健太郎さんのお話を聞き印象に残ったことが2つあります。

1つ目は、人の課題を解決することが仕事ということです。僕たちは今まで、お金をかせぐことが仕事だと思っていました。だから、仕事というものをきちんと理解していきたいです。

2つ目は、仕事をしていくなかでネガティブな点だけではなく、考え方をかえることが大事ということです。僕たちはネガティブに考えてしまったりすることが多いです。なので、ネガティブな考えをやめているような視点から物事を考えていきたいです。

御堂島 遥之介(旭ヶ丘中学校)  
櫻井 大嗣(高陵中学校)

物事を自分で決める大切さ、自分が好きなことの発見など聞かせていただいた。一番心に残ったのは「自分がやっていることは、いつか自分を救ってくれる」という言葉です。自分が好きでやってきたものが自分の将来に関わってくるのは、とても素敵だなと思いました。昔から関わっていたものが積み重なって、新しく縁ができるということも教えていただいた。

中井 郁斗(遠山中学校)

土屋さんは、「自分で決めてきたから自分の人生をおくれた」と言っていた。絵が好きで、イラストレーターを目指したが反対され、本のソムリエ団長さんとの出会いなどで自分の夢をつらぬき通そうと思ったと言う。僕もよくあきらめそうになることがあるし、まわりに反対されたら、言われた通りにしてしまう。人に決めてもらって人のせいにするくらいだったら自分で決めて失敗した方がかっこいいと思う。失敗を恐れずに後悔の少ない人生をおくれるよう、自分でしっかり決断して生きていきたいと思った。

蜂谷 草大(飯田西中学校)

8/29 COM(M)PASS HOUSE 遠山典宏さんとの出会い

遠山さんは「何をしている時が楽しい?何に心を動かされる?」と私たちに問いました。

遠山さんはふと見上げた夜空がとても美しかった時に心が動かされると話されました。

私は「ふと気付く地元の自然に心を動かされているんだ。」ということに気がきました。今まで、「地元はなにもなくてつまらない」と勝手に思い込んでいました。身近なことに注目していけば、もっと気付くことがあるのではと思いました。

長谷部 和希(竜東中学校)

遠山さんは無理に地元を好きになる必要はないけれど、でも何も知らないまま地元を「つまらない」と決めつけることはもったいないと話してくれました。

その話を聞いて、私は将来、都会で働くことを想像していたけれど、遠山さんの言葉で、自分はまだまだほとんど地元のことを知らないまま、外に出ていくことになっていたかも知れないと思い、もっと地元のことを知りたいと思いました。

平澤 翼(緑ヶ丘中学校)  
緒方 亜美(飯田東中学校)

